

富士川 小・中学生の「夢」をまちづくりに!

地区内のコミュニケーションを図っていく方法として、住民同士が直接交流するイベントなどが各地区で活発に行われていますが、今回、富士川地区では、一味違った方法を試みました。

一人ひとりの地区への「思い」を引き出そう、と「富士川地区がこれからどんな地区になってほしいか」について作文を募集しました。

題して「2030年以降の富士川地区の夢」作文コンクール。

チラシを作成し、地区内に配布するとともに、小中学校にも参加を呼びかけました。



▲ 大迫 会長

発案者である大迫進まちづくり協議会会長は、縁あって富士川地区に暮らしていますが、群馬県出身で、同窓会の仲間と郷土の歴史に関する冊子を作成されたことがあるそうです。たとえ遠く離れても、ふるさとを思う気持ちがあれば、地域に貢献できることを実感された自身の経験から、富士川地区の子どもたちにも、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを想う気持ちを育てたいと、この企画を提案されたそうです。

小学校、中学校から寄せられた67点の応募作品の中には、坂が多い富士川地区で高齢者が暮らしやすくなるためのアイデア、商店街をさらに元気にする提案、あいさつなど地区の人々が大切にしている心、優しさを大切にしていきたいといった意見など、さまざまな地区への思いが込められていました。

審査は、まちづくり協議会会長、副会長、会計、青少年育成部長、成人教育部長の皆さんが担当しました。各自、全作品を読み込んだ上で最終審査に臨み、じっくりと協議して最優秀賞、優秀賞、入選を選びました。もっとも大切にしたい審査基準は、どんな体験をし、そのうえで、どんな夢を思い描いているのか、という点でした。審査を通じて、富士川地区ならではの宝物や可能性をたくさん見つけることができました。今後は、富士川地区まちづくり協議会として、子どもたちの目線で描かれた独創的な未来への提案を、より多くの地区の皆さんで共有し、具体的な活動などの参考にしていきたい、と考えています。



▲ 応募作品とチラシ

◀ 富士川まちづくり新聞（作文コンクールの受賞作品を掲載しました）

受賞式・小学生の部 ▼

受賞式・中学生の部 ▼



地区内のつながりづくり

浮島 パソコンを活用してまちづくり協議会活動の共有を!

浮島地区まちづくり協議会では、今年6月、1台のパソコンを購入しました。副会長の中西光一さんは、「まちづくり協議会活動の全体像が見えるようにして、リーダーを任せられた方の不安やプレッシャーを減らしたい」と思い、「そのためにはパソコンを活用して記録を残し、情報を共有したらどうか」と考えました。そこで、パソコンに詳しい人など3名に声をかけ、目的、内容（フォルダ構成）、活用範囲、活用方法、運用（保管、保存管理）方法などを整理



した「パソコン活用計画書」を作成し、まちづくり協議会の部会長会議で提案しました。

まずは部会ごとのフォルダに活動の記録、写真などを保存するところから始め、まちづくり協議会事務の効率化を図り、まちづくり活動を広く地区住民に知ってもらえるしくみを整えていく計画です。

記録があれば、これまでいろいろな工夫によって活動を発展させてきた「がんばり」を大切にすることができます。そして、他の活動団体がその様子を知ることによって、工夫や成果を学び、成長することができます。また、活動内容が違っていても案内文などの書式を共有し、作業を標準化することで活動をより効率化できるなど、さまざまなメリットが考えられます。



「情報の共有によって、役員が代わっても活動が停滞することなく、誰でも安心して活動に参加できる「みんなのまちづくり協議会」にしていきたい」と、地区の活動や人々のつながりを確かなものにしていくための新たな取り組みが始まっています。

◀（左から）鈴木龍一さん、中西光一副会長、木村敏志会長、杉田菜穂子さん、伊藤泰路さん

コブタレポートのバックナンバーは、富士市のホームページでもダウンロードできます

コブタレポート

検索

